

WHO news January 2022

2022年1月4日

[New Food Safety Community of Practice will help share knowledge and improve practice](#)

WHO announces the launch of a new Food Safety Community of Practice (COP). The Community of Practice is a new peer-to-peer online forum for global professionals working on and sharing interest in food safety issues, who seek to deepen their knowledge and expertise in this area, exchange information and discuss ideas by interacting on an ongoing basis.

WHO : 食品安全に関するオンラインフォーラムを立ち上げ

WHO は、食品安全に関するオンラインフォーラム (コミュニティ・オブ・プラクティス (COP)) を立ち上げました。COP は、食品安全の問題に取り組み、関心を共有する世界の専門家が互いに切磋琢磨するための新しいオンラインフォーラムで、継続的に交流することによって、この分野の知識や専門性を深め、情報を交換し、アイデアを議論することを目的としています。

COP の目標は、学習の可能性を広げ、多様な経験や知識を共有し、新しい視点への理解を促し、個人と集団の学習を刺激することです。この機能的で活発な実践者のコミュニティは、時間をかけて質の高い技術情報を合理化し、拡大する役割を担っています。

会員は、定期的なウェビナー、月例更新、食品安全の情報などを利用することができます。また、食品安全に関する情報、イベント告知、その他のコンテンツを提出し、COP の他のメンバーと共有することができます。

2022年1月5日

[Together on the road to evidence-informed decision-making for health in the post-pandemic era: new EVIPNet Call for Action](#)

Evidence-informed decision-making is essential for improving the health and well-being of populations, and the COVID-19 pandemic has recently put a bright spotlight on the evidence-policy-society nexus. The newly published Evidence-informed Policy Network (EVIPNet) Call for Action charts the way forward for systematic and improved evidence-informed health policy-making towards more resilient, equitable and sustainable global health, both for future emergencies and recurring political and societal challenges.

パンデミック終息とエビデンスに基づく保健医療政策に向けて

確たるデータに基づいた意思決定は、人々の健康と幸福を向上させるために不可欠です。「エビデンスに基づく政策ネットワーク (EVIPNet) 行動要請」は、将来の緊急事態や繰り返し起こる政治的・社会的課題に対し、強靱で公平かつ持続可能な保健医療体制に向けた健康政策立案のための道筋を示します。

これは、2021年11月15日から17日に開催されたWHO Evidence-to-Policy Summitで発表されました。

しっかりとした根拠に基づく意思決定に向けて16の具体的なステップを実行するよう求めています。4つの主要なセクションは、以下の通りです。

1. 意思決定を支援する構造とプロセスの制度化すること
2. 意思決定を促進する高品質の規範、基準、ツールの使用すること
3. 意思決定の根拠としたデータの翻訳と使用のための国内および国際能力を確保すること
4. 特に緊急事態における政策決定において、根拠データの利用を容易、タイムリーかつ適切になるよう努力すること

2022年1月14日

[Message for World Leprosy Day 2022](#)

The social and economic upheaval caused by the coronavirus pandemic has been particularly hard on persons affected by leprosy and their families, many of whom were in a vulnerable position to begin with. Lockdowns implemented by governments have made it harder for them to access treatment and care, deprived them of income-generating opportunities, and exacerbated the deprivations their marginalized communities already faced.

With this in mind, in August 2021 I launched an awareness campaign called “Don’t forget leprosy.” The campaign aims to keep leprosy from slipping from view amid the COVID pandemic and ensure that the needs of those affected by the disease are not neglected.

世界ハンセン病デー：ハンセン病は社会差別の象徴

WHO ハンセン病制圧大使の笹川陽平氏から次のようなメッセージ（要約）が発信されました。（世界ハンセン病の日；1月27日）

- 2021年9月にWHOが発表した2020年のデータでは、新規患者数が前年比37%減となりました。これは、多くの国で、パンデミックによって、症例発見や治療などのハンセン病対策が中断していることを示します。ハンセン病患者の発見や治療が遅れると、不可逆な身体障がいにつながるため、これらのサービスを継続することが不可欠です。そのため、政府関係者や医療関係者に「Don’t forget leprosy（ハンセン病を忘れない）」キャンペーンへの協力を呼びかけています。
 - ハンセン病に伴う差別は、旧約聖書の時代から現代に至るまで、人種や国に関係なく世界中に存在しています。多くのハンセン病回復者にとって、治った後も差別がなくなるのには、社会が病んでいることを物語っています。ハンセン病の差別問題を解決できれば、世界のあらゆる人権問題を解決するモデルになると確信しています。
 - 私たちは地球上で唯一、理性を与えられた生物です。ハンセン病回復者が直面する社会からの烙印に理性で立ち向かい、社会から差別という病気をなくし、過去の過ちを繰り返さないようにしましょう。
-

2022年1月14日

[Draft Intersectoral global action plan on epilepsy and other neurological disorders 2022-2031](#)

In November 2020, the Seventy-third World Health Assembly (WHA) adopted resolution WHA 73.10 on *Global actions on epilepsy and other neurological disorders*, which requested the WHO Director-General to develop an *Intersectoral global action plan on epilepsy and other neurological disorders* in consultation with Member States. The action plan will address the challenges and gaps in providing care and services for people with epilepsy and other neurological disorders that exist worldwide and ensure a comprehensive, coordinated response across sectors

てんかんなど神経疾患に関するグローバルアクションプラン（案）2022 - 2031

神経疾患は、世界的に障がい調整生存年の第1位、死因の第2位を占めています。神経疾患の世界的な負担は大きいにもかかわらず、これらの疾患に対するサービスと支援の普及は、特に低・中所得国において十分ではありません。

2020年11月、第73回世界保健総会（WHA）における要請に基づき、「てんかんおよびその他の神経疾患に関するグローバルアクションプラン2022 - 2031」が策定されました。

（備考）障がい調整生存年（DALY：disability adjusted life years）；死亡を含む傷病や障がいの程度や期間によって重み付けをした、社会集団の健康状態を死亡損失と障がい損失として定量的に把握する指標。

2022年1月19日

[COVAX delivers its 1 billionth COVID-19 vaccine dose](#)

On 15 January 2022, a shipment of 1.1 million COVID-19 vaccines to Rwanda included the billionth dose supplied via COVAX.

Together with our partners, COVAX is leading the largest vaccine procurement and supply operation in history, with deliveries to 144 countries to date.

But the work that has gone into this milestone is only a reminder of the work that remains.

As of 13 January 2022, out of 194 Member States, 36 WHO Member States have vaccinated less than 10% of their population, and 88 less than 40%.

COVAX、コロナワクチン 10 億回分を出荷

COVAX は 1 月 15 日、110 万回分のワクチンをルアンダ向けに出荷し、これまでの累計出荷数は 10 億回分に達しました。

COVAX は歴史上最大のワクチン調達・供給組織として、これまでに 144 カ国にワクチンを納入していますが、1 月 13 日現在、194 の加盟国のうち 36 カ国が人口の 10 % 未満、88 カ国が 40 % 未満しかワクチンを接種できていません。

高所得国による買い占めと備蓄、壊滅的な伝染病の発生による国境や供給の制限によって、COVAXの壮大な目的は十分に達成できていない状況にあります。また、製薬会社によるライセンス、技術、ノウハウの共有が不十分であったため、製造能力が未利用のままになっていました。

COVAX は、各国政府、製造業者、パートナーと協力し、各国がワクチンを受け取る際に、人々に迅速に届けることができるよう取り組んでいます。

(備考) COVAX ; コロナウイルスワクチンを共同購入し途上国などに分配する WHO が主導する国際的な枠組み

2022 年 1 月 19 日

[Report of the technical consultation on measuring healthy diets: concepts, methods and metrics](#)

Food systems and diets are changing everywhere and monitoring the healthfulness of diets at global and national levels is becoming increasingly important. Better measurement and monitoring are needed to support governments in establishing policies and programmes to promote healthy diets and assess the effectiveness of these actions.

健全な食生活の測定技術報告書：概念、方法、測定基準

食物食糧システムと食生活はあらゆるところで変化しており、世界および国レベルで食生活の健全度をモニタリングすることが重要になってきています。政府が健全な食生活を促進するための政策やプログラムを確立し、これらの行動の有効性を評価するのを支援するために、測定とモニタリングが必要です。

本報告書は、3 つの包括的なトピックに焦点を当てています。

1. 世界の食生活モニタリングの概要と測定基準および特性の優先順位付け
2. 飲食物測定のための方法、ツール、指標
3. 健全な食生活を監視するための評価の世界共通指標を特定するためのステップの定義と優先順位付け

2022 年 1 月 19 日

[IARC marks Cervical Cancer Awareness Month 2022](#)

January is Cervical Cancer Awareness Month, and this year the International Agency for Research on Cancer (IARC) will highlight three different research projects that demonstrate the impact IARC is having in tackling the global burden of cervical cancer.

The showcased projects are in the areas of (i) vaccination against high-risk types of human

papillomavirus (HPV), the causative agent of most cases of cervical cancer; (ii) treatment of cervical precancerous lesions in a resource-constrained setting; and (iii) improving coverage of cervical cancer screening programmes in at-risk populations.

IARC : 1 月は子宮頸がん啓発月間

1 月は子宮頸がん啓発月間です。今年、国際がん研究機関 (IARC) は、子宮頸がんの世界的な課題に取り組む IARC の影響を示す 3 種類の研究プロジェクトに焦点を当てます。

今回紹介するのは、以下の 3 つです。

1. 子宮頸がんの原因物質である高リスク型ヒトパピローマウイルス (HPV) に対するワクチン接種、
2. 資源に乏しい環境における子宮頸前がん病変の治療、
3. リスクを抱える人々の子宮頸がんスクリーニングプログラムの普及向上に関する事業

子宮頸がんは完全に予防できる数少ないがん種であるという特徴があります。このがんの大部分 (99%) はヒトパピローマというがん原性のあるウイルスに感染することで発症します。このウイルス (HPV) は極めてありふれたもので、性交渉で伝播します。

HPV ワクチンは予防に最も有効で、それ以外の対処の手段もあり、多くの国で実施されています。それにもかかわらず 2020 年には新規の罹患者が 60 万人を超え、世界で 34 万人が死亡しています。

2022 年 1 月 19 日

[Working for a brighter, healthier future](#)

In 2020 WHO has established the HQ Interdepartmental Technical Working Group on Adolescent Health and Well-being. The aim of the group is to act as a mechanism for coordinating initiatives related to adolescent health within WHO HQ, and ensure effective internal and external communication, coordination and collaboration. The group decided that one of its joint products will be a biennial report on WHO work on adolescent health. This is the first in a future series of biennial reports that describes WHO's efforts to elevate adolescent health through collaboration and by coordinating new initiatives, expanding the scope of work and establishing ambitious objectives with its development partners and adolescents.

青少年の明るく健康的な未来のために (WHO 活動報告書)

青年期は、年上の子どもでもなく、年下の大人でもありません。青年期は、人間の成長におけるユニークで形成的な段階なのです。この複雑な通過点には、急速な身体的成長、ホルモンの変化、性的発達、新しい感情や葛藤、認知的・知的能力の向上、道徳的発達、仲間や家族との関係の発展が含まれます。しかし、思春期は神経発達を形成する重要な時期であるという神経科学の証拠があるにもかかわらず、この年齢層への早期介入はほとんど行われていません。

WHO は思春期の青少年の健康に関する活動を漸次強化し、12 以上の部局で業務範囲を拡大してい

ます。2020年、WHOは「思春期の青少年の健康とウェルビーイングに関する本部部門間技術作業部会」を設立しました。このグループの目的は、WHO本部内の思春期の健康に関する諸活動を調整するメカニズムとして機能することです。

本報告書は、WHOの横断的な活動について述べたものであり、将来の経済と社会の発展がかかっている10～19歳の12億人を超える青少年の健康と人生の充実に取り組むために、WHOが行う活動を描いています。

2022年1月19日

[World NTD Day 2022: Achieving health equity to end the neglect of poverty-related diseases](#)

World Neglected Tropical Diseases Day (WNTDD) will be celebrated on Sunday 30 January 2022. To mark this celebration, WHO is organizing a virtual event, calling on everyone to address the inequalities that characterize NTDs. WNTDD is an opportunity to re-energize the momentum to end the suffering from these 20 diseases that are caused by a variety of pathogens including viruses, bacteria, parasites, fungi and toxins.

The day provides an opportunity to focus on the millions of people who have limited or no access to prevention, treatment and care services.

世界「顧みられない熱帯病」デー2022

1月30日(日)は世界顧みられない熱帯病(NTD)デーです。WHOはバーチャルイベントを開催し、NTDsに付きまとう不平等を解消するよう、すべての人に呼びかけています。この日は、ウイルス、細菌、寄生虫、真菌、毒素などさまざまな病原体によって引き起こされる20の疾患の苦しみを終わらせるための機運を盛り上げる機会です。

顧みられない熱帯病(NTDs)は、水の安全性や衛生環境、医療の普及が十分でない世界の最貧地域で蔓延しています。これらの病気は、世界の保健医療(産業)の対象から除外され、資金投入の恩恵もほとんどなく、スティグマや社会からの排除により、“無視されて”きました。これらの病気は、十分な教育が受けられず、したがって職業上の機会も得られないという、負のサイクルが永続する、無視された人々の病気です。

- ・2020年には7億5,700万人がNTDの治療を受けました。
- ・10億人以上がNTDに感染しており、毎年、17億人が予防治療を必要としています。
- ・43カ国が少なくとも1つのNTDを克服しました。

2022年1月19日

WHOの学習プラットフォームOpenWHOに待望の日本語教材

WHOの学習プラットフォームOpenWHO.orgは、運用開始5年目を迎え、大幅な開発と拡張が

行われました。

2021年12月までに、OpenWHOは600万人以上を登録し、300万人以上の修了証を授与しています。学習者は、プラットフォームの全コンテンツで2,700万回以上のビデオ視聴を記録し、接続デバイスでのビデオストリーミングは693,000時間以上となりました。

この度、WHO本部からの依頼に基づき、産業医科大学産業生態科学研究所と労働安全衛生総合研究所から以下の日本語教材が発行されました。

1) COVID-19 と労働 : COVID-19 流行下の職場における健康と安全性の維持

(本コースの対象者は、労働者とその代表者、ビジネスリーダー、管理監督者、労働安全衛生の専門家。所要時間：約2時間)

<https://openwho.org/courses/COVID-19-and-work-JA>

2) COVID-19 流行下における医療従事者の労働安全衛生

(本コースの対象者は、医療従事者、インシデント管理者、医療施設の方針や手順書を作成する監督者と管理者。所要時間：約1時間)

<https://openwho.org/courses/COVID-19-occupational-health-and-safety-JA>

2022年1月21日

[Statement on the tenth meeting of the International Health Regulations \(2005\) Emergency Committee regarding the coronavirus disease \(COVID-19\) pandemic](#)

The Director-General determined that the COVID-19 pandemic continues to constitute a PHEIC. He accepted the advice of the Committee and issued the Committee's advice to States Parties as Temporary Recommendations under the IHR

コロナ重症化は低下も「国際的な公衆衛生の緊急事態」は継続と判断

1月13日に開催された国際保健規則(IHR)に基づくWHO緊急委員会において、新型コロナウイルスによる「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」が継続しているとの判断が出されました。現在のワクチンは、COVID-19による重症化および死亡のリスクを低減する効果は持続していますが、全変異型の感染リスクを完全に否定できません。高リスク集団を確実に保護するためには、協調的な世界戦略が不可欠であり、特にワクチン接種率が低い国、特に10%未満の国に重点を置く必要があります。最適なワクチン戦略のために、感染後の自然免疫も考慮した異種混合ワクチンに関する研究と、メーカーがそれらデータを共有する必要があるとしました。

また、7月までにすべての国の人口の少なくとも70%にワクチンを接種することや、渡航制限については、有効でないとして解除や緩和を求めた臨時勧告が出されました。

2022年1月24日

[U.S. EPA and WHO partner to protect public health](#)

This week, the U.S. Environmental Protection Agency (EPA) and World Health Organization (WHO) signed a five-year [Memorandum of Understanding \(MOU\)](#). The agreement continues EPA-WHO collaboration on a wide range of specific and crosscutting environment and health issues, particularly air pollution, water and sanitation, children's health, and health risks due to climate change. The updated agreement includes exciting new actions on crosscutting issues including infrastructure and environmental justice.

WHO : 米環境保護庁と「環境と健康」で協定を継続

WHO は、世界の全死亡の 24 %、5 歳未満の子供の死亡の 28 % が環境と関連し、低・中所得国の人々が最も大きな疾病負担を負っていると推定しています。

WHO と米国環境保護庁 (EPA) は、環境と健康の問題に関して 5 年間延長の覚書に調印しました。この協定は、特に大気汚染、水と衛生、子供の健康、気候変動による健康リスクなど、環境と健康に関する広範で具体的な問題について協力を継続するものです。インフラや人々にとって公平な環境を含む新しい行動が含まれています。

今後 5 年間、EPA と WHO は、気候変動による健康への影響に重点的に取り組みます。きれいな空気や安全な飲料水など、気候変動の影響を受ける多くの環境から生じる健康要因に対処すると共に、有毒物質、特に鉛含有の塗料への曝露を低減することにより、子供を保護することに焦点を当てます。

2022 年 1 月 24 日

[WHO publishes new global data on the use of clean and polluting fuels for cooking by fuel type](#)

2.6. billion people lack clean cooking access

One third of the global population or 2.6 billion people worldwide still remain without access to clean cooking. The use of inefficient, polluting fuels and technologies is a health risk and a major contributor to diseases and deaths, particularly for women and children in low- and middle-income countries. It makes cooking with polluting fuels one of the largest environmental contributors to ill health. Shedding further light on the extent of the problem, the WHO has recently released new data on the use of different types of fuels used for cooking at global, regional and country levels.

家庭における調理用燃料と環境汚染

世界人口の 3 分の 1 にあたる 26 億人が、いまだクリーンな調理ができないでいます。非効率的で汚染を引き起こす燃料の使用は、健康上のリスクです。特に低・中所得国の女性や子どもにとって、病気や死亡の大きな原因となっています。そのため、汚染を生み出す燃料を使った調理は、健康を損なう最大の環境要因の一つとなっています。

WHO は、世界、地域、国レベルで調理に使用されるさまざまな種類の燃料の使用状況に関する新しいデータを発表し、問題の大きさを浮き彫りにしています。

全データは、WHO の大気汚染データポータル (WHO's Air Pollution Data Portal) からアクセス

でき、定期的に更新されています。

2022年1月24日

[WHO summary of Baseline report for UN Decade of Healthy Ageing is now available in all official UN languages](#)

The UN Decade of Healthy Ageing 2021-2030 is a global collaboration, that brings together governments, civil society, international agencies, professionals, academia, the media, and the private sector to improve the lives of older people, their families, and the communities in which they live. To support all stakeholders around the world to drive forward their efforts towards the achievement of healthy ageing, WHO is launching translations of the [Decade of healthy ageing: baseline report – summary](#) in all official UN languages.

WHO : 国連「健康な高齢化の10年」の報告書要約を公開

WHOは「健康な高齢化の10年：基礎データ・報告書 - 要約」を国連の全公式言語で公開しました。

この報告書はWHOが、“高齢期のウエルビーイング（福祉と幸福）を身体機能の能力を開発・維持するプロセス”と定義しているヘルシーエイジング（健康に老いる）を測定するためのデータをまとめたものです。

報告書の要約版では、5つの問題について取り上げています。

1. 健康な高齢化10年の行動と実現要因、2030年までに進捗を加速させるための道筋を紹介。
2. 2020年現在、我々はどこにいるのか？ この報告書は、世界のヘルシーエイジングに関する初めての基本情報を提供。
3. 2030年までにどのような改善が期待できるのか？ 進捗状況と改善のためのシナリオ。
4. 高齢者の生活への影響を加速させるには？ 高齢者とステークホルダーが共に機能的な能力を最適化する方法。
5. 次の報告期間である2023年までに、協働と影響力を高めるための機会を含む次のステップ。

(参考) 「Decade of Healthy Ageing 2020 - 2030」の日本語訳（仮訳）は、神奈川県の下記サイトに掲載されています。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/31207/decadeofhealthyageing_jp.pdf

2022年1月25日

[Planning and budgeting tool for TB and drug-resistant TB testing](#)

[The Global Laboratory Initiative \(GLI\)](#), with its secretariat at the World Health Organization (WHO) Global TB Programme, is pleased to release a Planning and Budgeting Tool for TB and Drug Resistant TB Testing for calculation of quantities and costs of diagnostic products and laboratory supplies. The tool references product numbers and prices in the Stop TB Partnership [Global Drug Facility \(GDF\) Diagnostics, Medical Devices, and other Health Products Catalog](#).

結核および薬剤耐性結核検査のための計画・予算作成ツール

結核、HIV（エイズ）および薬剤耐性の問題は密接に絡んだ公衆衛生の大きな課題ですが、世界全体では検査能力、設備・施設の不足から十分に問題を把握できていません。

WHO が主導する世界検査能力向上の取り組み（GLI：Global Laboratory Initiative）は、WHO の世界結核対策本部（Global TB Programme）を事務局として、診断薬や検査用品の数量やコストを算出するための「結核および薬剤耐性結核検査の計画・予算策定ツール」を公開します。

このツールで重要なことは、各ユーザーの診断薬や検査室の供給ニーズを考慮する際に、各国特有の疫学や診断アルゴリズムを考慮していることです。

2022 年 1 月 25 日

[Opening of the 150th session of WHO's Executive Board](#)

Director-General outlines five priorities for world and for WHO going forward:

Our commitment in the coming year – and in the coming five years – is to dramatically strengthen our ability to deliver results in countries.

WHO 第 150 回執行理事会開幕：5 つの優先課題

第 150 回執行理事会は、2022 年 1 月 24 日～29 日に開催されます。執行理事会は、最高の意思決定機関である世界保健総会（5 月 22 - 28 日開催予定）の下準備をする役割を担っており、総会が承認した国が選出する 34 名で構成されています（日本からは中谷比呂樹氏が出席）。

理事会の開催にあたり、事務局長の掲げた 5 つの優先課題（要旨）は次の通りです。

これからの 5 年間、WHO が責任を持つべきことは、各国の成果を出す能力を大幅に強化することです。

- 第一に、今回のパンデミックから学ぶことは、各国が健康と福祉・幸福な状態を促進するため、緊急に発想の転換に向けた支援することです。
- 第二は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの基盤として、プライマリー・ヘルス・ケアに向けた医療システムの抜本的な方向転換を支援することです。これは保健サービスへ普及、拡大、維持し、家計負担を減らすことを意味します。
- 第三は、あらゆるレベルで疫病やパンデミックに対する備えと対応のためのシステムとツールを早急に強化することです。

- 第四は、健康増進と疾病予防、早期診断と症例管理、疫病やパンデミックの予防、早期発見、迅速な対応など、科学、研究イノベーション、データ、デジタル技術を活用することです。
- 第五は、WHO をグローバルヘルス領域において世界を指導し、方向付けを行う権威ある組織として、緊急に強化することです。

執行理事会の審議の状況は WHO のサイトで配信され、動画も視聴できます。

2022 年 1 月 25 日

[Review of Minamata convention initial assessment reports: key findings for health](#)

The Minamata Convention on Mercury is a global, legally binding treaty, which was adopted in 2013 and entered into force on 16 August 2017. The core of the Convention is protection of human health, as stated in Article 1: “to protect human health and the environment from anthropogenic emissions and releases of mercury and mercury compounds”. Implementation of the Convention requires multisectoral action, including the health sector.

In order to raise awareness about health ministries’ preparedness and outstanding needs to be able to implement the health-related articles of the Convention, WHO reviewed all the 59 MIA reports that had been submitted to the Secretariat of the Convention up to 31 July 2021 as well as two national implementation plans.

水俣条約の初期評価報告書レビュー：重要な知見を要約

水俣に関する水俣条約は、2013 年に採択され、2017 年 8 月 16 日に発効した世界的な法的拘束力のある条約です。この条約の核心は、第 1 条で「水俣及び水俣化合物の人為的な排出及び放出から人の健康及び環境を保護すること」とあるように、人の健康を守ることにあります。この条約の実施には、保健分野を含む多部門の活動が必要です。

WHO は、条約を実施可能なものとするため、2021 年 7 月 31 日までに条約事務局に提出された 59 件の MIA (水俣初期評価に関するプロジェクト：Minamata Initial Assessment) 報告書すべてと、2 件の加盟国の実施計画書をレビューしました。

WHO はレビューの結果を要約し、いくつかの勧告を行うものです。

注) 水俣病は、熊本県八代海沿岸及び新潟県阿賀野川流域において発生した公害病のひとつです。高度経済成長にあった日本で発生し、1956 年 5 月に公式発見されました。第二水俣病、四日市喘息、イタイイタイ病と並び日本における 4 大公害病のひとつに数えられます。

水俣病は、メチル水俣が工場排水に混じって環境中に排泄され、これらを多く取り込んだ魚や貝をヒトが摂取したことで発生しました。しかし、メチル水俣が原因だと判明し、環境に配慮した対策がとられたのは 1968 年のことで、多くの方が水俣病に罹患する事態となりました。

2022年1月27日

[New insights into quality of care for girls and women facing the complications of unsafe abortion](#)

Özge Tunçalp, Medical Officer at WHO and HRP comments, “This supplement shows how far we still have to go in ensuring quality, respectful post-abortion care for all; it also proves how much we can learn when we commit to working together. Across 11 countries, knowledge has been gained and research capacity has been strengthened. A stronger research community is better able to listen, ask and answer questions, working together for a future where every woman and girl achieves the highest standard of sexual and reproductive health and rights.”

危険な中絶とケアの質：変化への行動が必要

危険な中絶によって、あまりにも多くの少女や女性が命を落とし、短期的・長期的な悪影響に直面し続けています。しかし、中絶関連の合併症を持つ少女や女性に医療従事者やシステムがどのように質の高いケアを提供するのがベストなのか、情報は不足しています。

HRP (人間の生殖プログラム)、WHO 及びパートナーは、ケアの提供、経験、質に関する証拠を集めるため、サハラ以南のアフリカ 11 国から中絶に関連する合併症を持って医療施設に通院している 2 万 3 千人以上の女性のデータが収集されました。

本研究の成果を紹介する特別論文によると、特にサハラ以南のアフリカでは、重度または生命を脅かす合併症を持つ女性が多くいました。中絶と中絶後のケアに対する取り組みには、臨床的ケア、セルフケア、ケア提供のための業務の共有と分担、そして法的に裏付けられた保健制度が含まれます。何より各国の意思決定者が変化への行動をとる必要があります。

2022年1月27日

[WHO establishes a Technical Advisory Group on Measurement, Monitoring and Evaluation of UN Decade of Healthy Ageing](#)

The World Health Organization has established a new [technical advisory group](#) on measurement, monitoring and evaluation of the United Nations Decade of Healthy Ageing (2021-2030). This multidisciplinary group of 20 experts will review and assess evidence and provide recommendations to advance the measurement work related to the UN Decade of Healthy Ageing and its four action areas: a) change how we think, feel and act towards age and ageing, b) ensure that communities foster the abilities of older people, c) deliver person-centered integrated care and primary health services that are responsive to older people; and d) provide access to long-term care for older people who need it.

「健康な高齢化の 10 年」の技術諮問委員会を設立

国連は先に、「健康な高齢化の 10 年」の要約を公表しましたが、今回それに引き続いて測定、モニタリング、評価に関する技術諮問グループ (technical advisory group : TAG) を新たに設置しました。

20 人の専門家からなるこの学際的なグループは、「健康な高齢化の 10 年」とその 4 つの行動分野に関わる測定作業を進め、データのレビューと評価を行い、提言を行います。

1. 年齢と加齢に対する考え方、感じ方、行動を変えること
2. 地域社会が高齢者の能力を確実に育むこと
3. 高齢者個々人を中心とした統合ケアとプライマリヘルスサービスの提供を行うこと
4. 高齢者が利用できる長期ケアの普及を行うこと

(備考) この TAG には、日本から近藤克則氏 (日本老年学的評価研究機構 代表理事, 千葉大学教授) が参加されています。

2022 年 1 月 31 日

[WHO establishes a Technical Advisory Group on Measurement, Monitoring and Evaluation of UN Decade of Healthy Ageing](#)

To mark World Neglected Tropical Diseases Day (WNTDD) , the World Health Organization (WHO) is calling on everyone, to rally to confront inequalities that characterize NTDs and ensure that the poorest and marginalized communities who are mostly affected by neglected tropical diseases (NTDs) receive the health services they need.

世界顧みられない熱帯病デー：すべての人に公平な医療サービスを

顧みられない熱帯病 NTDs (Neglected tropical diseases : NTDs) は、ウイルス、細菌、寄生虫、真菌、毒素など、さまざまな病原体によって引き起こされる 20 種類の多様な疾患です。NTDs は、10 億人以上の人々に健康、社会、経済に大きな損失を及ぼしています。

世界顧みられない熱帯病デー (World Neglected Tropical Diseases Day ; WNTDD) を記念して、WHO は、NTD の特徴である不平等に立ち向かい、影響を受ける最貧層や疎外された地域社会の人びとが必要な保健サービスを確実に受けられるように呼びかけています。

注) 本サマリーは、WHO 発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう 標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHO ニュースリリース、声明及びメディア向けノートの内容をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>